

生き物を守ることとそれを教えること

動物応用学科4年 奥津憲人

私は今教育実習を行っている。高校生を相手にし、これから授業もする予定だ。私の場合は授業で自分の専門の内容を教えることになっており、その内容は保全生態学にしようと考えている。つまりは生物多様性保全の重要性を生徒に感じてもらいたい。そのため最近では以前に読んだ本を読み返したり、授業のノートを読み返したりと今まで学んできた内容を振り返る機会が多かった。そこで改めて思うのが「生き物っておもしろい」ということだ。以前はミミズの解剖ですら悲鳴を上げていた私が、今では進んで骨格標本などを作っている。以前の自分からしたら、にわかには信じがたいことだ。いつから生き物に興味を持ち始めたのか、これを機会に少し考えてみることにした。

幼稚園の頃、私の通っていたのは少し特殊で、園舎がなく、毎日バスで公園や原っぱ、河原などに行って遊ぶ幼稚園だった。その頃から私は生き物に興味があったのだろう。毎日自然と接し、虫やカエルを捕まえ、家ではイモリやオタマジャクシ、カブトムシなども飼った。身近にいることに何も疑問を感じることなく、当たり前のように触っていた。

ところが小学校に入学し、校舎という閉鎖的環境で勉強するようになり、また友達とゲームで遊ぶようになると（我が家にテレビゲームはなかった）、生き物と接する機会は極端に少なくなった。それでも中学年まではカナヘビを捕まえたり、ザリガニ釣りをしたりと機会がなかった訳ではないが、それも高学

年になるとまったくなくなり、いつの間にか虫を触ることができなくなっていた。

そして中学に上がるころには「虫が嫌い」と自分で言うほどになっていた。カエルやミミズを触ることも嫌うようになり、飼っているペットは犬だけになっていた。別に理科が嫌いというわけではなかった。むしろ理科は好きだったし、得意な教科であった。それでも解剖や実際に触ることに嫌悪感を抱いていた。

ところが高校に入学し、恩師ともいえる先生に出会い、様々な話を授業で聞くようになると、自然に「生き物っておもしろい」と感じるようになっていた。なぜだろう。解剖なども進んで参加させてもらうようになっていた。なぜだろう。どんな理由があるにせよ、当時の私にとって生き物というものが学術的な興味対象になっていた。その理由が分かれば、今生き物に全く興味がない生徒にも生き物に対して興味を持ってもらえるかもしれない。

私の場合を考えてみよう。私が最初に学術的な興味を持った生き物はおそらく野生動物だ。ペットも飼っていたが、それは家族のようなものであり、学術的な興味対象として見たことはなかった。高校の恩師の授業は少し特殊で、まるで大学の講義のような授業をする。それは主に内容である。大学生である私が教育実習で授業を見学しても新しいことを聞くことができる授業で、普通の理科とはかなりかけ離れていた。その内容は主に生き物

に関する事で、一枚の新聞記事から非常に多岐にわたる話題に繋がっていく。生徒の多くはちんぷんかんぷんで楽しくないと感じていたようだが、私にはとてもおもしろく感じた。毎回違う動物の話で、それも不思議な内容ばかり。なぜそうなるのか、何がそうなるのか、そもそも一体何者なのか。生き物に対する疑問は尽きなかった。だから高校生頃から先生につき野生動物の調査等も行ってた。今考えるとそれは単純に「生き物っておもしろい」と感じていたからだろう。

話を戻すが、私は生物多様性保全の必要性を生徒に感じてもらいたい。そのためにはどうにかして生き物に対してプラスの興味を感じてもらわなければならない。しかし、私がおもしろいと感じても他の人はおもしろいと感じないことが多々ある。万人受けする生き物を守る必要性を伝えなければならない。これはどうしたらいいのだろうか。

いろいろな文献を読むと、動物のおもしろい行動はたくさん出てくる。「パンダはなぜ逆立ちをするのか」という本には奇妙奇天烈な動物の行動がたくさん紹介されている。これを読めば多くの人が「おもしろい」と感じ

るだろう。こんなおもしろい動物がたくさんいるから、動物を研究する必要がある。こんなおもしろい動物を守らなければならないのだというのは比較的簡単な道筋かもしれない。また、生き物との関係の意味を詳しく説いて、人間に必要なだから守らなければならないという導きやすいかもしれない。

しかし私はあまりこの導き方をしたくない。「保全生物学のすすめ」にも書いてある。「野生動物と共存できるか」にも書いてある。私が高校生に説きたいのは「生き物が持つ価値」だ。価値といっても人間にとってのものではない。その生き物が存在する価値。長い年月を経てその生き物が生まれたということ自体に存在する価値を感じてもらいたい。決して人間のため、つまり「おもしろいから」「必要だから」という価値ではなく、「生き物だから」という価値を生徒に感じてもらいたい。それは簡単なことではないだろう。「なぜ必要でもない生き物を守らなければならないのか」。そんな生徒の疑問は確実に出てくるだろう。それでも今まで私が感じた生き物の価値を説き、少しでも生き物を守る必要性を感じてくれたらいいと思う。